



ビジネスモデルを変革する インターネット・データセンター (iDC)

iDCイニシアティブ

プロモーション部会副部長 久保田直己
(サン・マイクロシステムズ株式会社)

平成13年5月

10月16日、iDCイニシアティブ設立

I-D-C環境を整備

iDCイニシアティブ設立総会



143超の企業が参加

インターネット・データセンター事業者、学協会関係者等約600名が参加した。iDCイニシアティブの目的は、インターネット・データセンター事業者間の連携を促進し、iDC環境を整備することにある。iDCイニシアティブは、インターネット・データセンター事業者、学協会関係者等約600名が参加した。iDCイニシアティブの目的は、インターネット・データセンター事業者間の連携を促進し、iDC環境を整備することにある。



技術/ハード参加143社が資産共有

インターネット・データセンター事業者、学協会関係者等約600名が参加した。iDCイニシアティブの目的は、インターネット・データセンター事業者間の連携を促進し、iDC環境を整備することにある。

日本ではじめてインターネット・データセンター・ビジネス（iDC事業）の推進を目的とする「iDCイニシアティブ」が16日、設立総会を開催し、正式に活動を開始した。会長は中央大学の大崎正和教授、理事長にはサン・マイン・クロシシステムほか9社を連立、設立時の会員数は約400社。目標は「1社1iDC」を目指す。iDC事業の推進は、iDC事業としてインターネット・データセンター事業者間の連携を促進し、iDC環境を整備することにある。

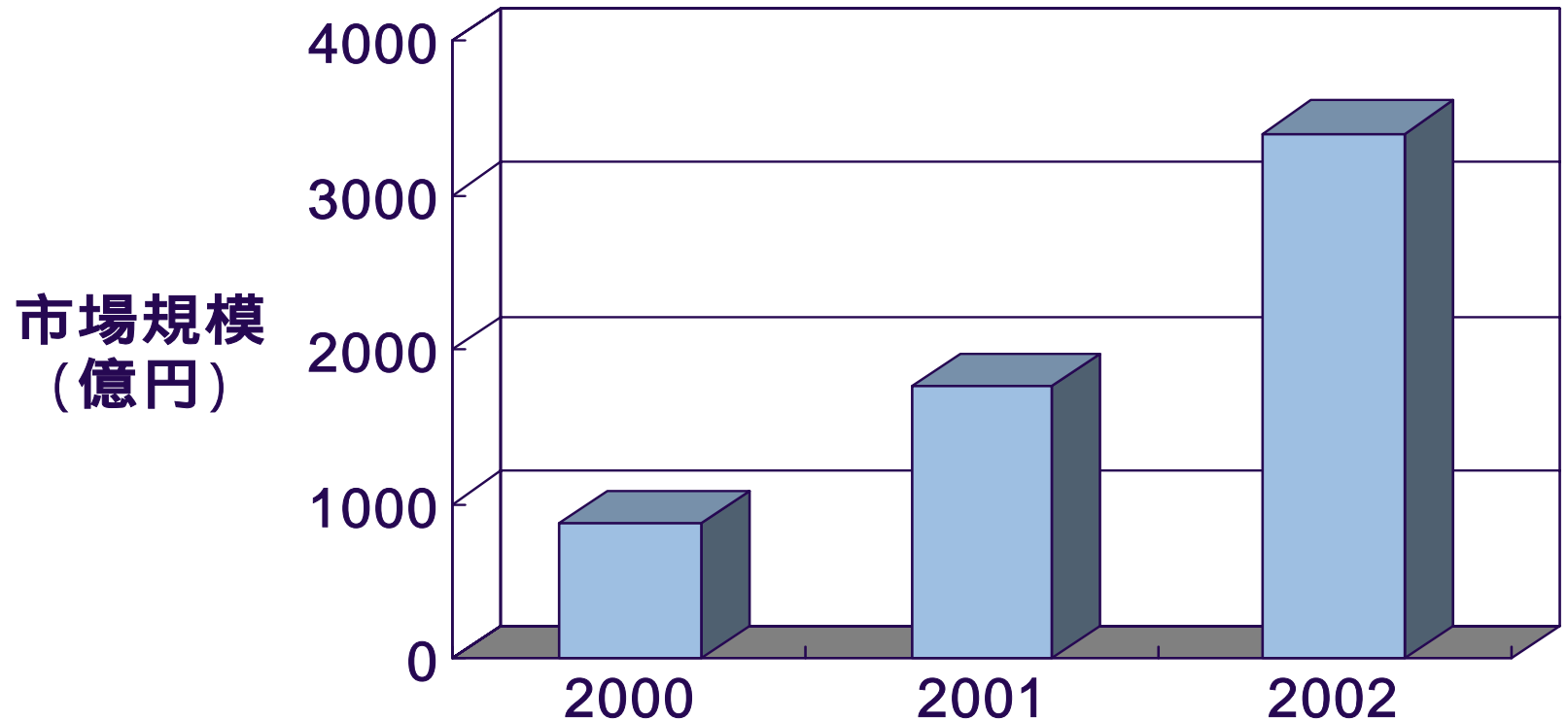
iDCイニシアティブが設立総会

ネット・データ事業育成

160社・団体で推進組織

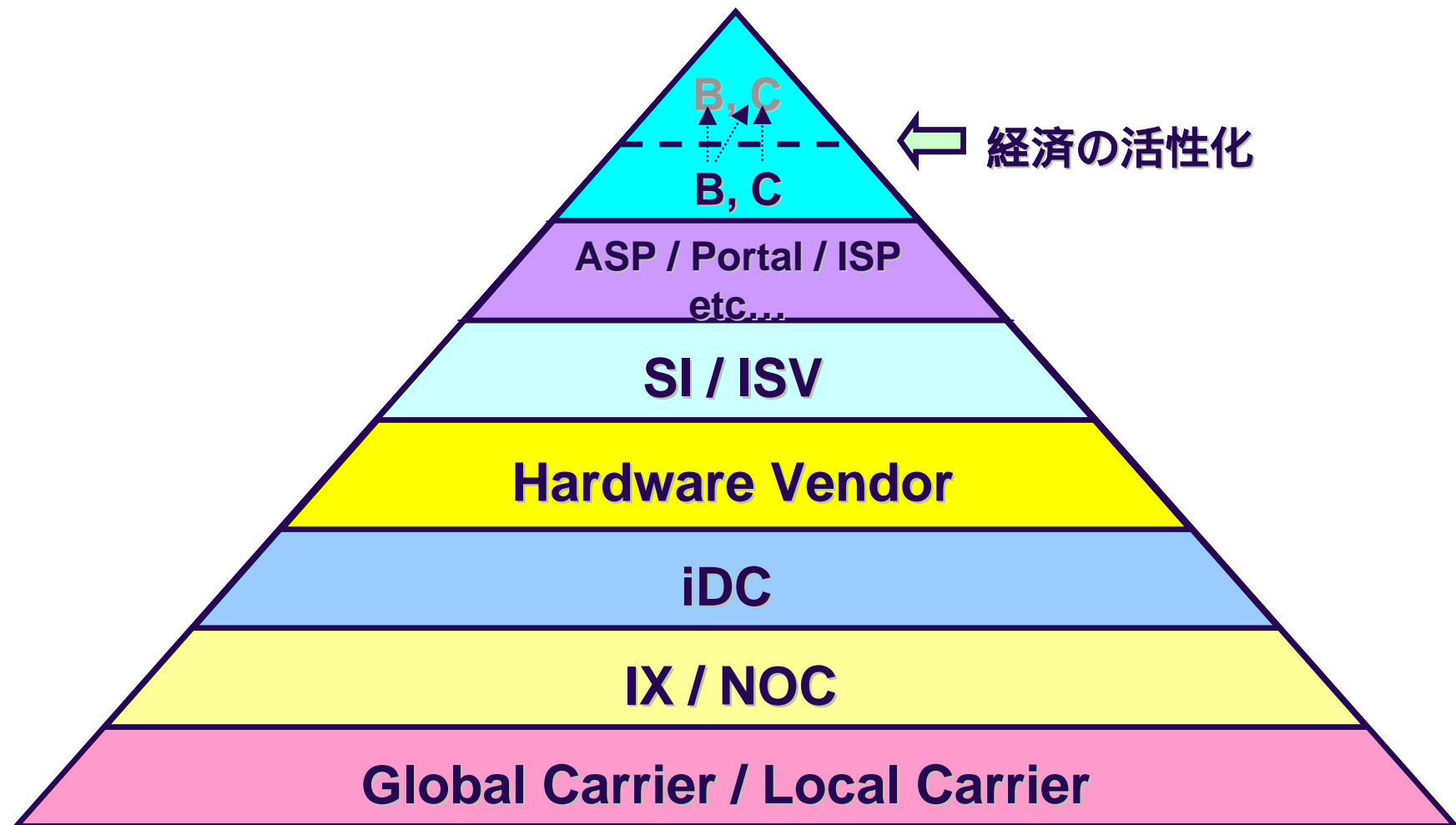
インターネット・データセンター事業者、学協会関係者等約600名が参加した。iDCイニシアティブの目的は、インターネット・データセンター事業者間の連携を促進し、iDC環境を整備することにある。

日本のiDC市場規模



出典:ESP総研調べ

iDCビジネス階層モデル



iDCに不可欠な4つの要素

iDCとは？

「堅牢な建物と施設に信頼性の高いサーバーを収納し、
高速なインターネット回線で接続したサービス」

- インターネットへの高速接続
- 信頼できる設備と契約
- 柔軟な拡張性
- ビジネスモデルの展開

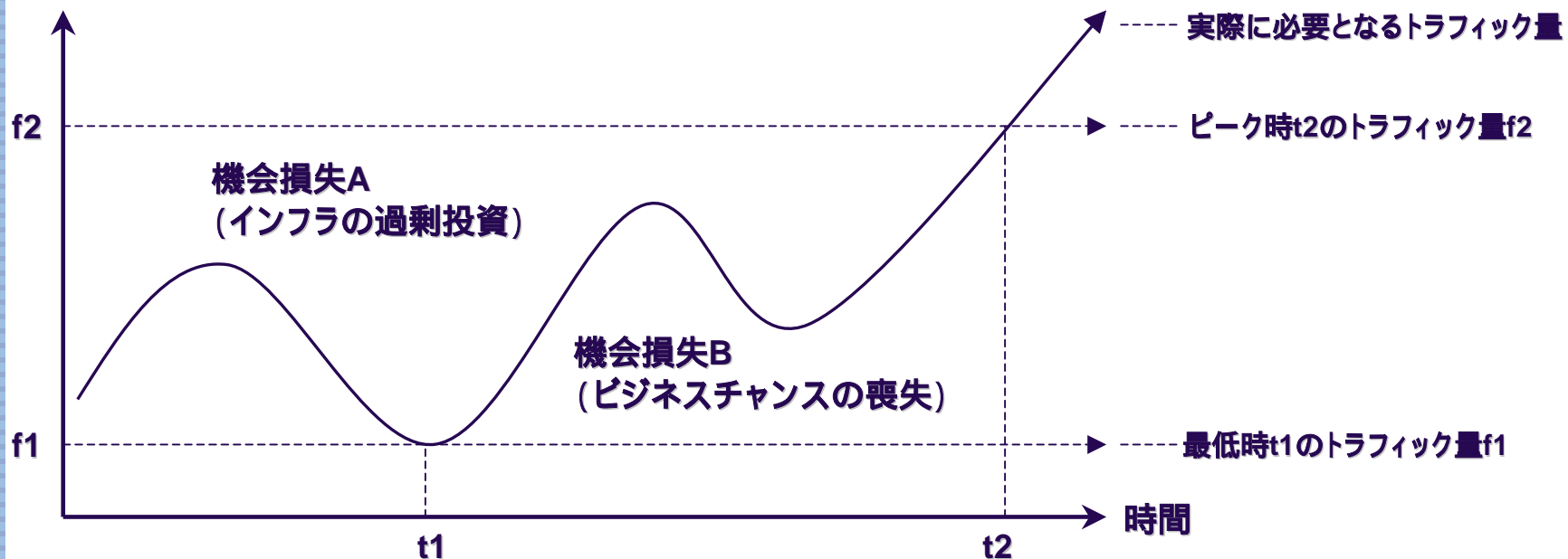
(大橋・長井「インターネットデータセンター革命」より)

- **高速バックボーンへの直結**
 - 自社で専用線を引くと著しく高価
 - 専用線の新規契約、帯域増減には時間が掛かる
 - ピーク・アワー対応の無駄な投資を避けたい
 - クリスマスセールなどの一時的ピークをカバーしたい
 - Webアクセス者に快適なパフォーマンスを提供

- より高いセキュリティ
 - バックアップを含むデータセキュリティ
 - 侵入者や災害に対するセキュリティ
- 監視・管理工数の削減と安定稼働
 - 24H x 365日の監視
 - 自社で基幹LANの増強を気にする必要が無い
 - 二重化電源やハイレベルの空調でより高い可用性
 - CPU/メモリ/サーバ/ストレージのタイムリーな増設（納期）
- SLA

iDCビジネスの本質

トラフィック (Network/Hardware)



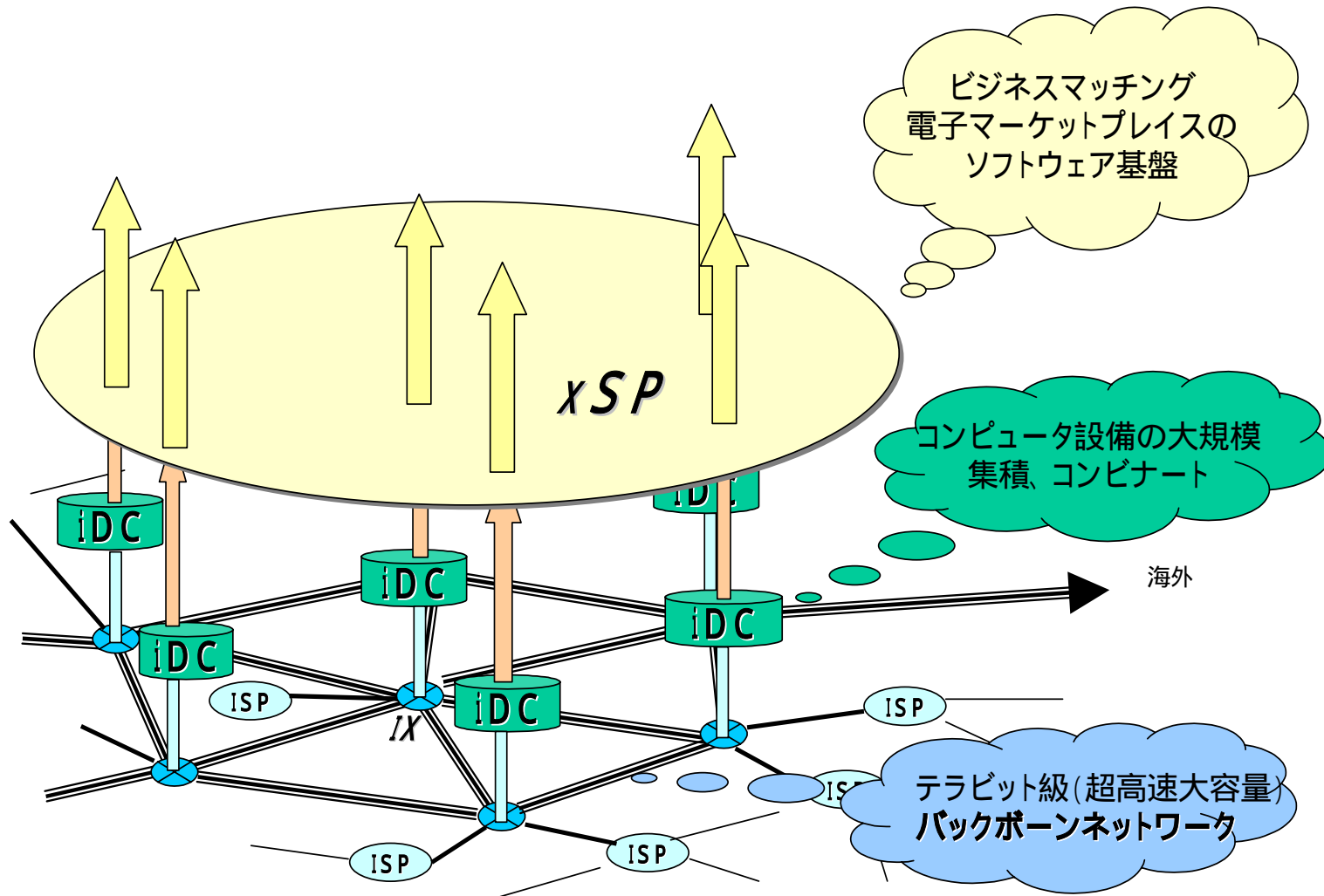
顧客のiDC利用目的： ネットワーク回線に対する不安(パフォーマンス)を解消しつつ、低コストで、サーバ性能を最大限に有効利用できるサービスを楽しむ事。

iDCビジネスの特長： 実際に必要となるトラフィック量(ネットワーク帯域、サーバ性能)に対して、低コストかつ柔軟に対応可能な事。

iDCの最終ゴール： 上記、機会損失A・Bを最低限に抑えつつ、ビジネスを最大限効率化する(上記曲線に限りなく近づける事)。

- 決済サイト、ストレージ・ネットワークなどがファシリティ内の住人の場合、ローカルで繋がり高速化する。
- サーチ・ポータルがファシリティ内の住人の場合、その連動(インデックス化やリンク)も高速化する。
- ファシリティ内のB-to-Bが活性化される。
(企業提携やエンジニア募集など。ファシリティ内にいる人間は全て身元が確か！)
- ネットワーク + ストレージ 新たな社会インフラ
の形成

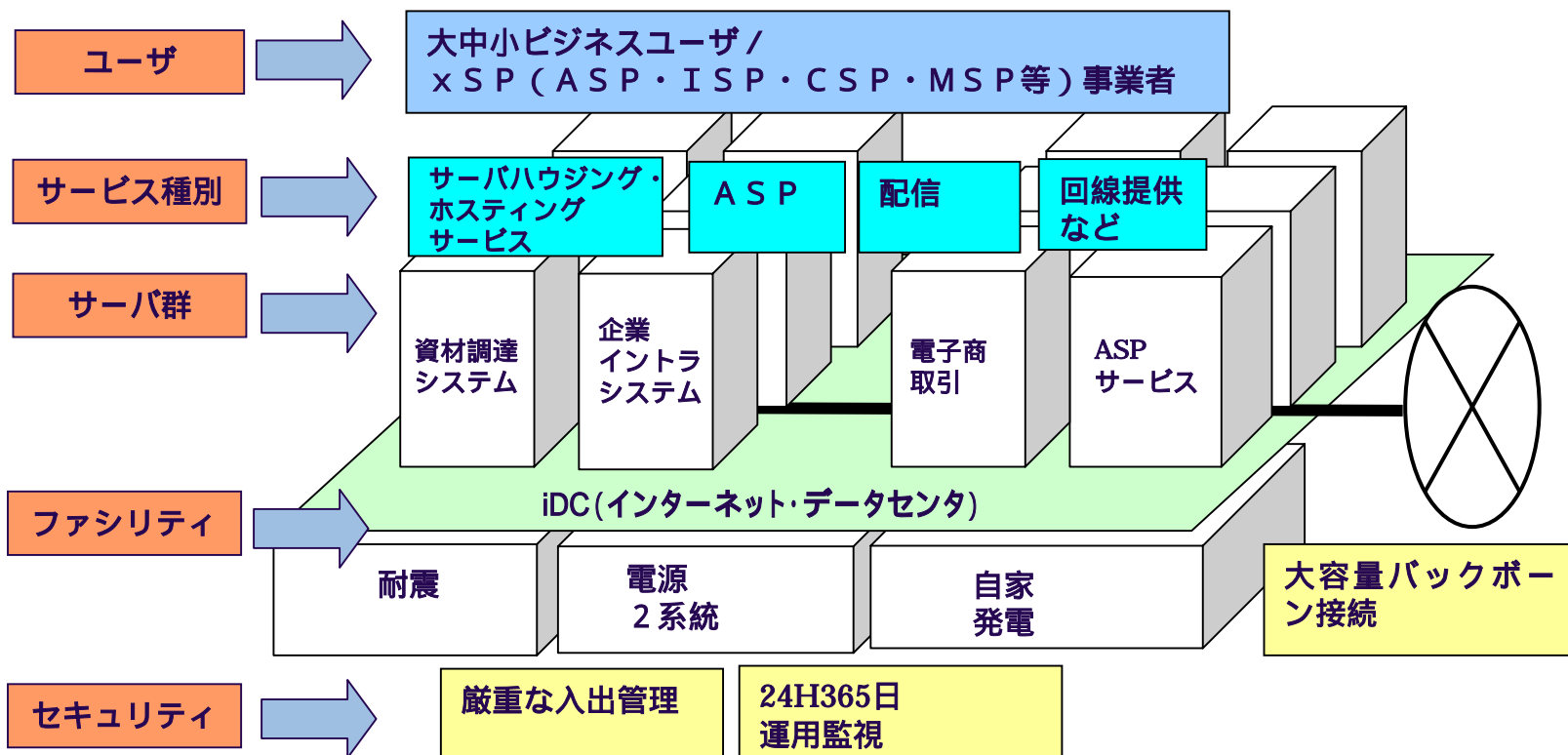
iDCをコアとした次世代情報流通プラットフォーム



イニシアティブ設立の背景

iDC (インターネット・データセンタ)

iDCとは、セキュリティが高い環境を、低コストで利用でき、即座にインターネットビジネスが始められるために、災害に強く監視体制も整備された建物で、顧客のサーバ等のコンピューター式を預かったり必要なハードウェア・ソフトウェアを貸し出したりするビジネス拠点

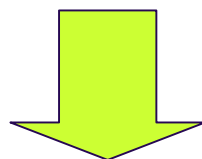


～ iDCビジネス基盤整備の促進 ～

インターネットを基盤としたiDC事業の新市場開拓と最高のスペックモデルの構築を通じた、iDC産業の育成

iDCをコアとした、オープン系、デジタル系ネットワーク時代の次世代情報流通プラットフォームの基盤整備の促進

iDC事業の活性化のために共同事業の育成の促進を通じて、新しいビジネスモデルの実現



インターネット対応ITコンポーネントのリーディングカンパニーのアライアンスを核に、iDCユーザを巻き込み、ワールドワイドに通用する電子ビジネスのオープンな推進母体を結成

ユーザサイド

a. 大企業ユーザ

- ダウンサイジング、インターネット対応による資源管理のリスク軽減
- セキュリティ管理、周辺設備の投資負担軽減
- IT技術者を本業に投入
- 市場競争原理が働く垂直分業、コンポーネントベンダーによるコラボレーションにより最適なソリューションを獲得(選択肢の拡大)
- SLAの透明性増大による、情報サービスの流通革命

b. 中小規模ユーザ

- 使いたいときに、使いたいだけIT資源を安価に調達
- グローバル、デファクトスタンダード導入による重複投資の回避と業務効率化

c. 多くのユーザ

- iDCをコアとしたB-to-Bのセキュアな専用高速インフラの実現により安く早い回線が利用可能
- 教育、医療、行政といった社会システムにおける情報流通プラットフォームとして活用可能

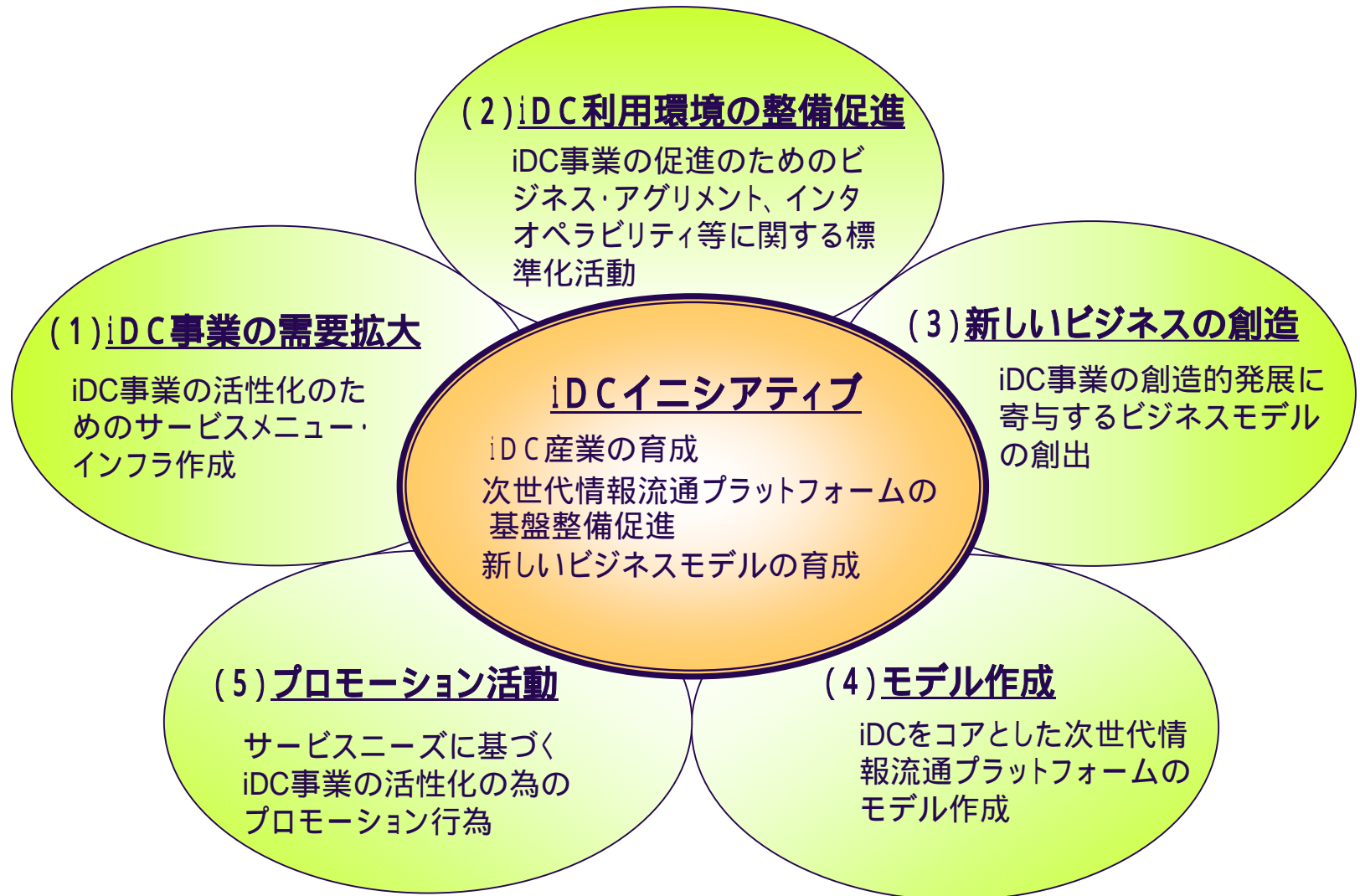
供給サイド

d. コンポーネントプロバイダ

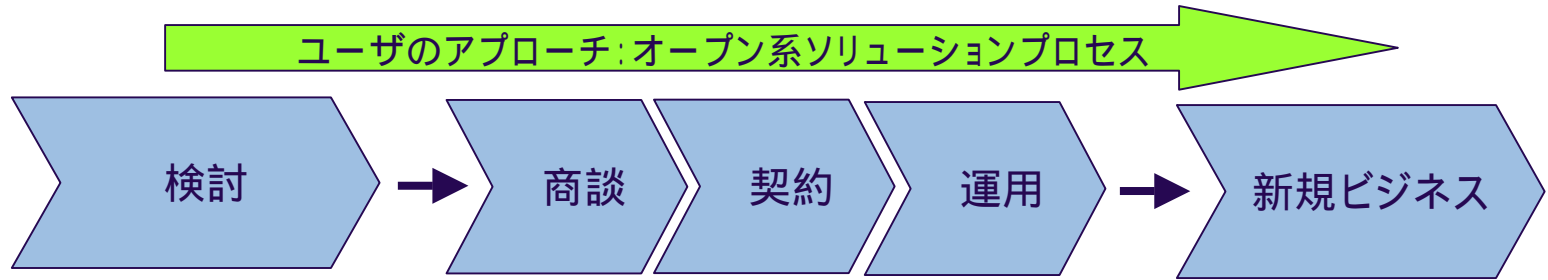
- サーバ市場拡大を阻害する、ユーザ側の重荷を解消
- 新たな大口顧客であるiDC業界の発展
- iDC事業の興隆により、バックボーン、ISP、ASP他の市場拡大

e. iDC事業者

- iDC内、iDC間のビジネスマッチングによる新しいビジネスモデルの創出(需要拡大)



オープン系ソリューションプロセスに対応した活動



(1) iDC事業の需要拡大

ITリソースのベストプラクティスである「テンプレート」の検討
テンプレートを活用した
需要の掘り起こし

(2) iDC利用環境の整備促進

標準化(SLA、インタオペラビリティ)
サービス評価の検討
iDCに特化した技術資格
プログラムの開発
iDCビジネスコーディネータの育成

(3) 新しいビジネスの創造

会員間の事業提携支援
iDC上の新ビジネスモデルの創造
研究課題への取り組み
(例)iDCビジネスモデル特許管理

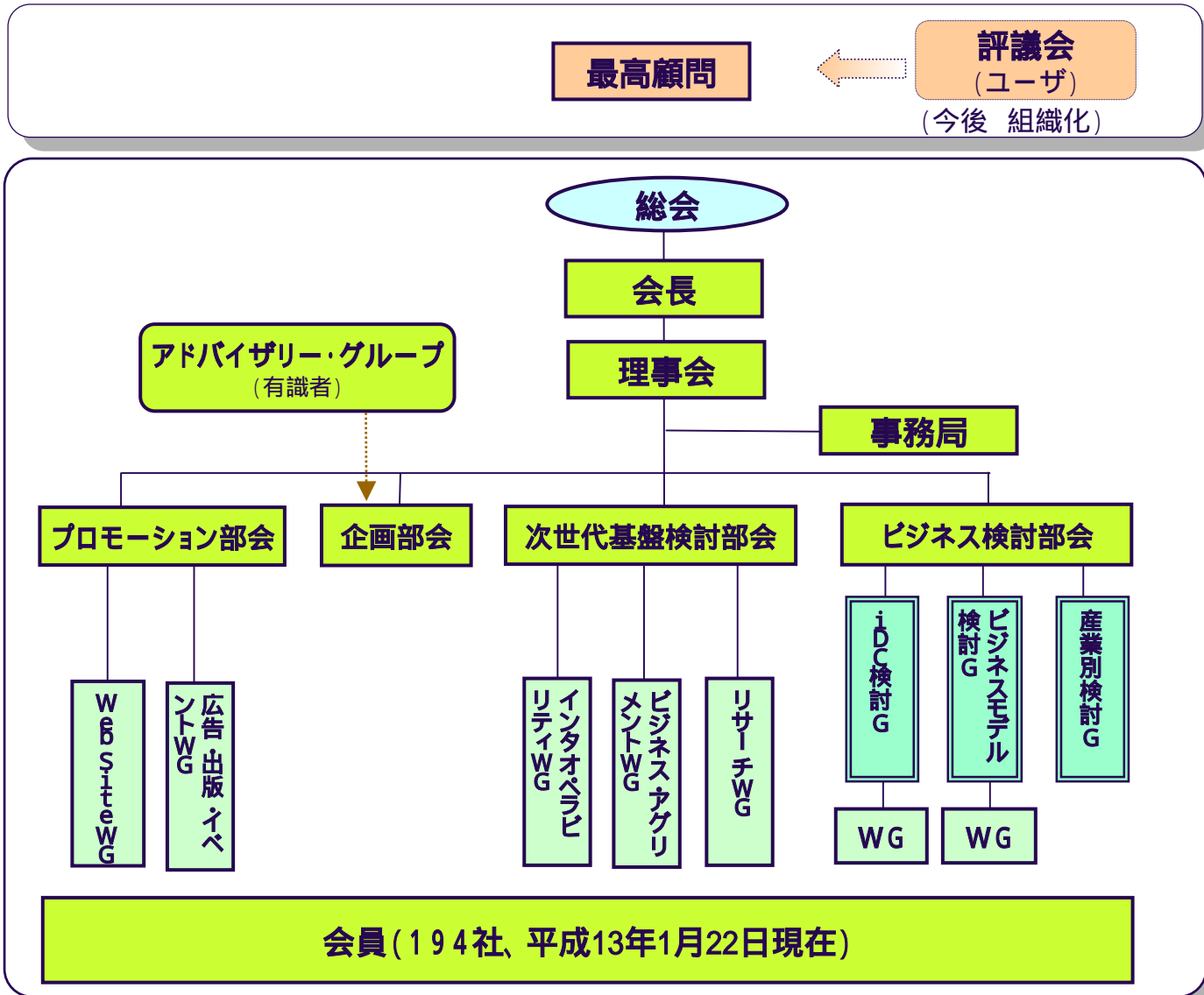
(4) モデル作成

次世代のネットワークモデル構築
(例)光ファイバ網によるヘビーコンテンツのストリーミング配信

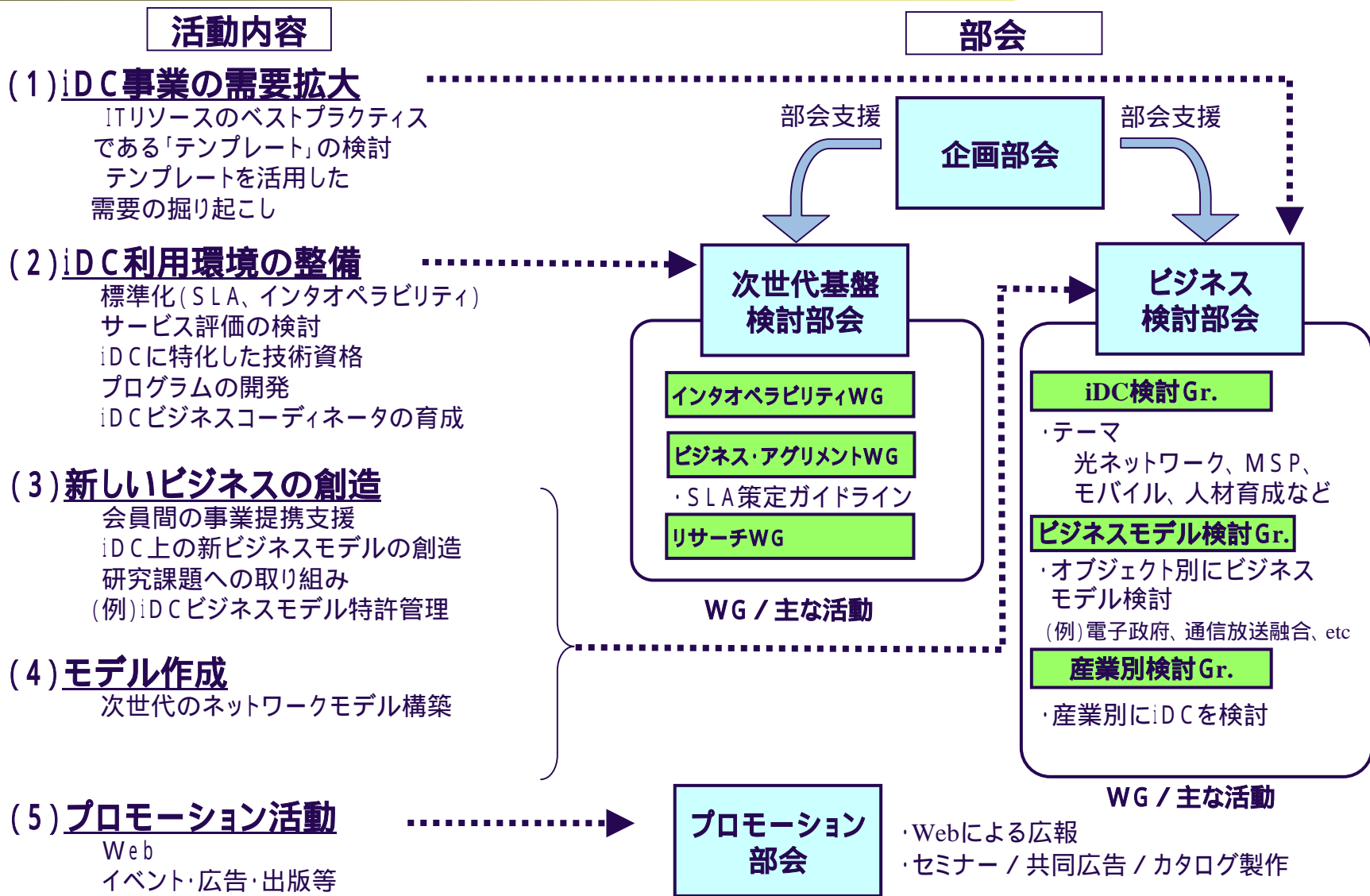
(5) プロモーション活動

イベント
マーケットプレイス(外部組織と連携)

iDCイニシアティブ体制



活動内容と部会の関係



- ビジネス・アグリメントWG

iDC利用者の立場でのサービス保証(信頼・安心の保証)の基準の指標づくりとともに、iDCサービスの供給者側(事業者)にとって満たすべき基準の指針づくり

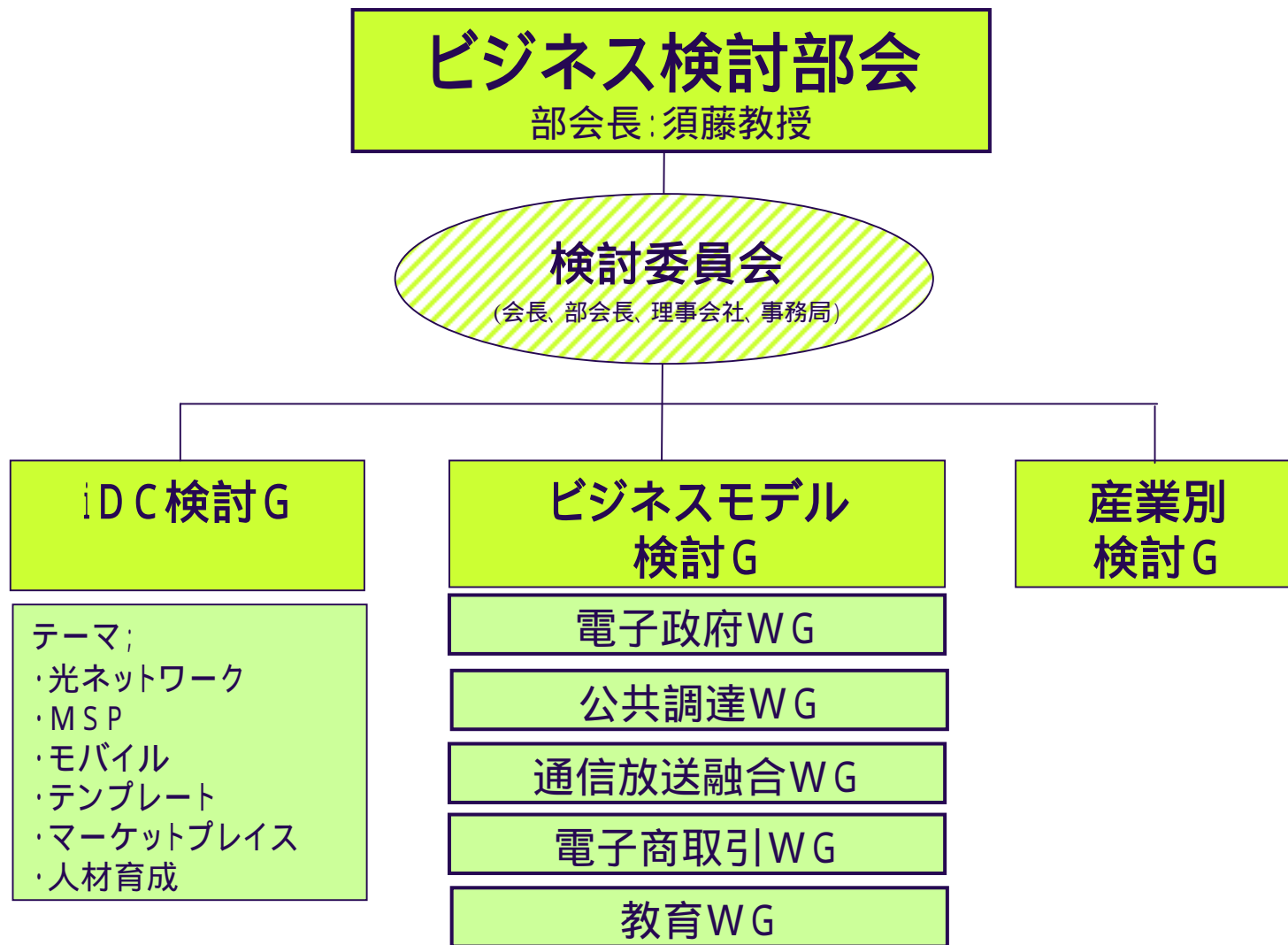
- インタオペラビリティWG

iDCのパフォーマンスを保証するインタオペラビリティの検討

iDC + ネットワークを核とするインフラ構築に関わる検討

「iDCガイドライン」作成

ビジネス検討部会 組織図



書籍ご紹介



<http://www.idcinit.com>

をご覧ください。